

# 環境デュー・ディリジェンス普及セミナー

2021年2月22日

アセットマネジメントOne株式会社  
責任投資グループ 櫻本 恵



## エンゲージメントの基本姿勢

社会課題の解決  
中長期的な財務安定・企業価値向上  
「リターン = 事業機会の拡大」重視

エンゲージメント  
の基本姿勢

市場全体の  
底上げ

## 組織・体制

- ESG専門部署の設置
- 経験豊富な専任ESGアナリスト・リサーチアナリスト・ファンドマネジャーの連携

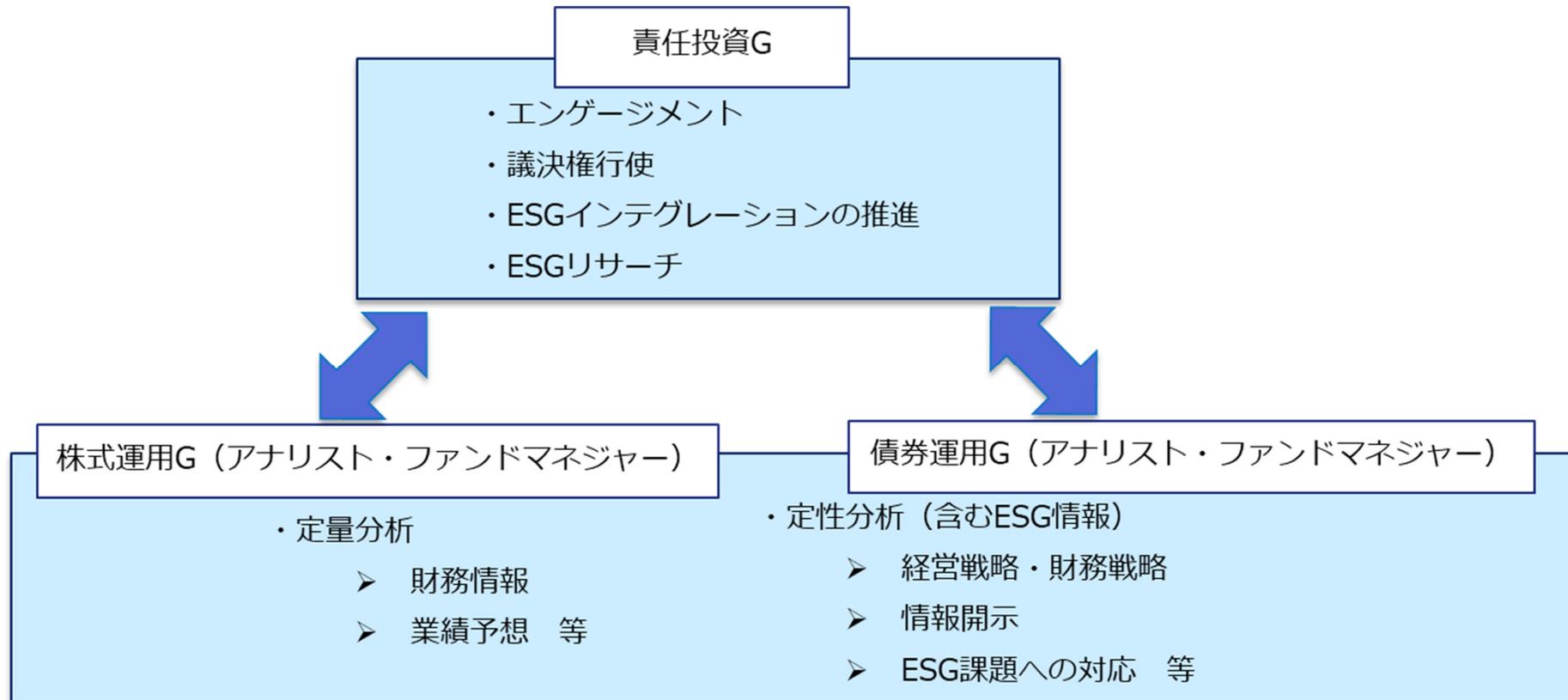
組織・体制

## エンゲージメント手法

適切なESG課題設定、きめ細かな  
マイルストーン管理  
充実したエンゲージメント資料  
インベストメントチェーン  
との有機的連携

エンゲージメント  
手法

2016年に専門部署として『責任投資グループ』を新設。以降、運用業務経験豊富な専任のESGアナリストや議決権行使担当者を充実させながら、運用部門のファンドマネジャーやアナリストとの協働を行い、包括的な視点に基づく質の高いエンゲージメントを実施



## ESG関連評価軸

### 【リターンの観点】

環境や社会に関する世の中のニーズの変化を捉え、それをいち早く「価値創造」や「市場創造」に結びつけているか

それにより、企業の「競争力強化」や「持続的発展」と共に、「経済の活性化」や「より良い社会づくり」に繋がられているか

### 【リスクの観点】

企業の持続的成長を阻害する可能性のある要因として、環境や社会などの視点からどのようなものを認識しているか

認識している要因に対してどのような対策を講じているか

重点確認事項(リターンの観点、リスクの観点に加え)

ESG活動が経営の中核に位置付けられているか

持続的な発展を目指すための「投資」として位置付けられており、単なる社会貢献としてのコストとして扱われていないか

法令順守のレベルに留まることなく、新たなフロンティアに挑戦するための自主的取り組みとなっているか

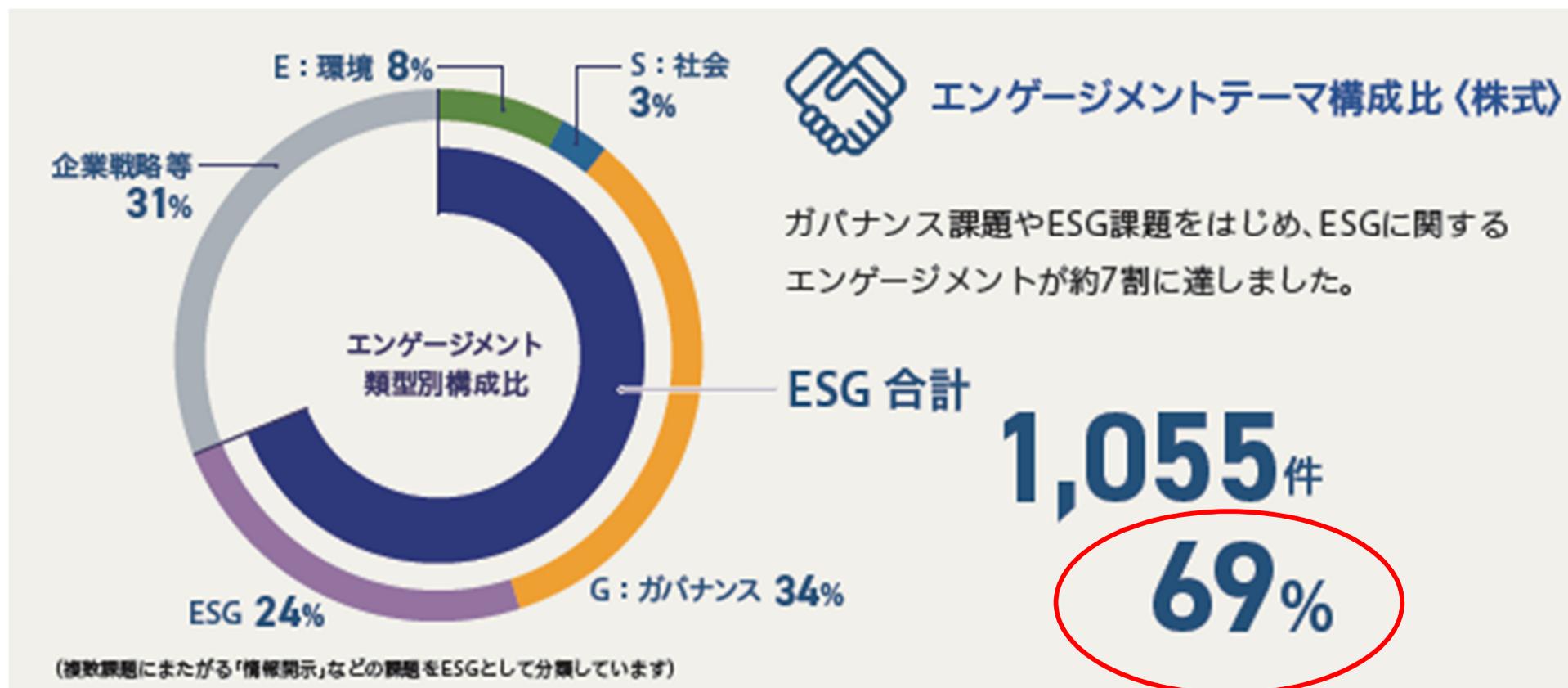
## 20のESG課題

E	E1: 気候変動
	E2: 森林伐採 (森林破壊)
	E3: 水資源
	E4: 生物多様性
	E5: 汚染と廃棄物
	E6: 資源・エネルギー
S	S0: ダイバーシティ
	S1: 人権
	S2: 労働基準/安全衛生
	S3: 製品責任
	S4: 地域社会
G	G0: 取締役会・企業統治
	G1: 資本効率
	G2: 買収防衛策
	G3: リスクマネジメント
ESG	ESG1: CSR/ESGマネジメント
	ESG2: 不祥事
	ESG3: 地方創生
	ESG4: CSR調達
	ESG5: デジタルトランスフォーメーション

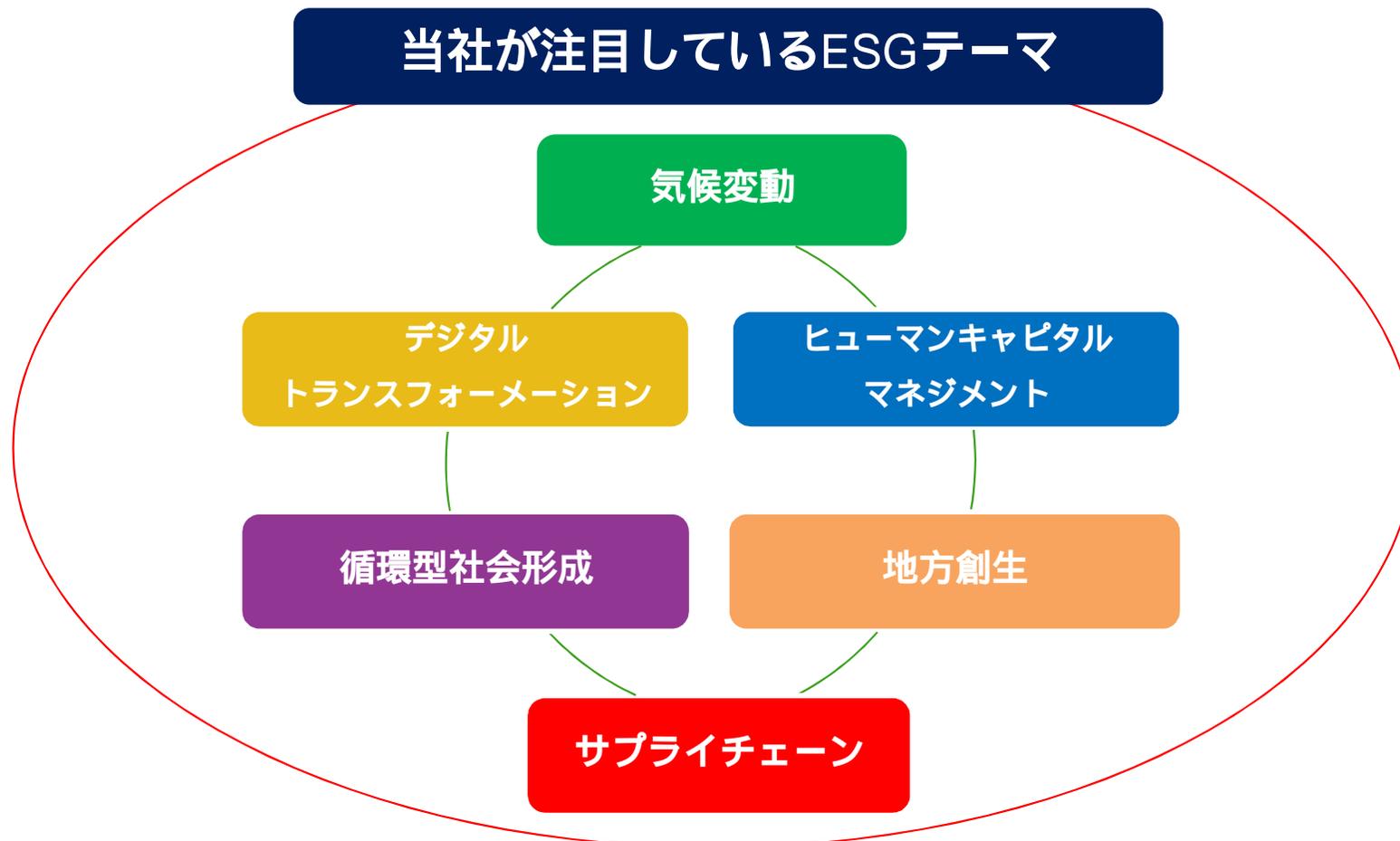
## 8段階のマイルストーン

1. 課題設定：当社が投資先企業に対し、取り組むべきESG課題を設定
2. 課題提示：当社が対話において投資先企業にESG課題を提示
3. 課題共有：（担当）：投資先企業（担当者）が当社提示のESG課題を認識
4. 課題共有：（経営）：投資先企業（経営者）が当社提示のESG課題を認識
5. 課題着手：投資先企業が当社提示のESG課題への取組みを検討
6. 計画策定：投資先企業がESG課題への取組みに関して具体的な計画を策定
7. 施策実行：投資先企業がESG課題解決に向け本格的な施策を展開
8. 課題解決：当社が投資先企業の施策を実効的なものと認識

ESGに関するエンゲージメントが約7割に達しており、ESGの重要性はより高まる方向にある



中長期的な企業価値向上に大きな影響を与えると考えられるESGテーマを重点テーマと位置付けて、精力的にエンゲージメントを実施



企業の持続可能な発展を担保するためには、環境問題や社会問題の解決に向けて、CSR調達ガイドラインなどに基づいたサプライチェーン全体での対応が重要

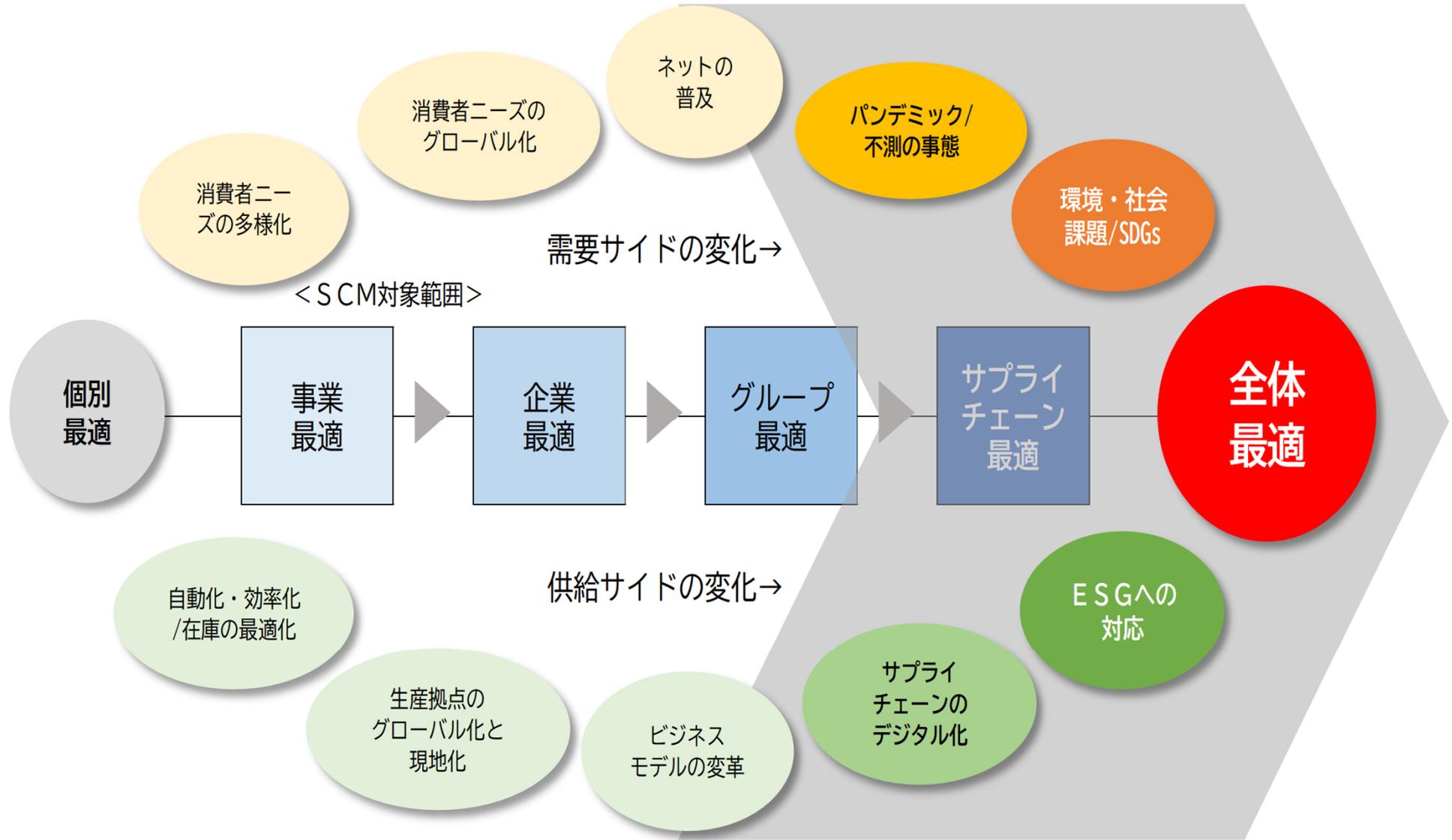


投資家にも企業に対してサプライチェーンを意識した課題解決への働きかけが求められている

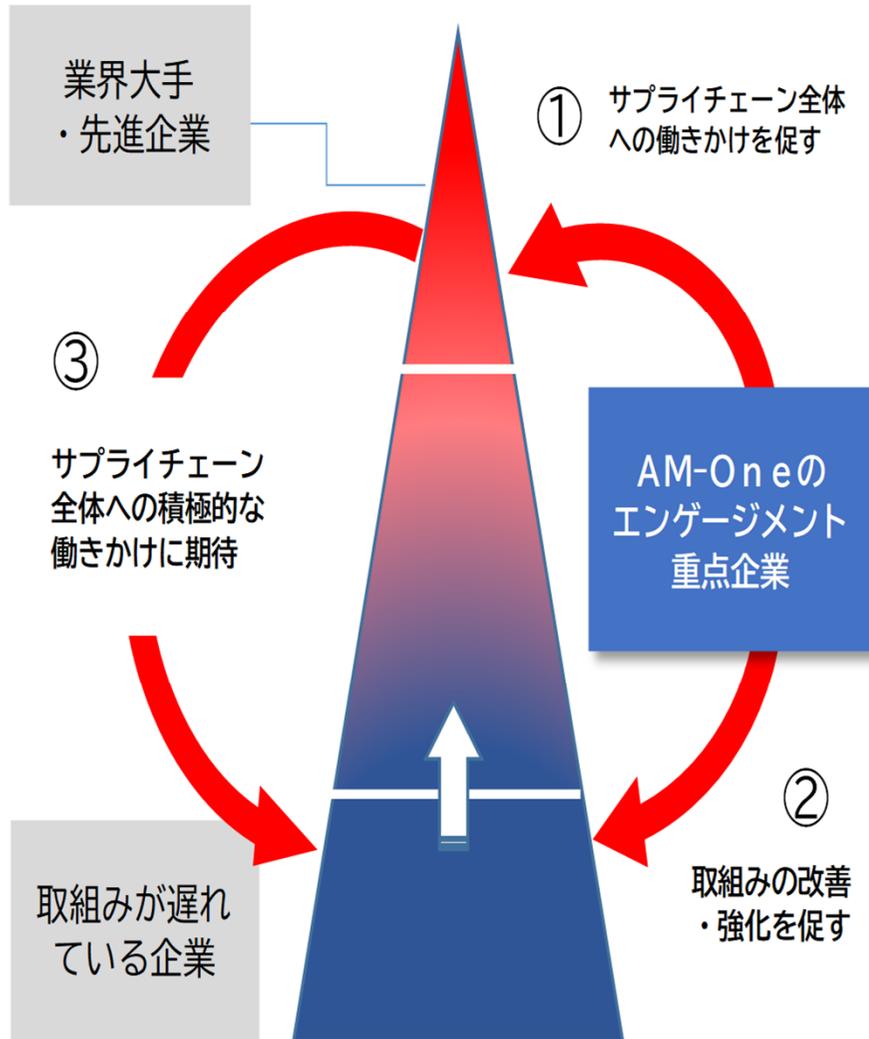


産業連関的な考え方に基づいて、波及効果が期待できるサプライチェーンのトップに位置する大手企業を中心に、積極的にエンゲージメントを実施

# サプライチェーン ~ 全体最適がポイント ~



# サプライチェーン ~ 市場全体の底上げに向けた独自の取組み ~



サプライチェーン	主な重要課題	目指すゴール
調達	CSR調達 (ESG4)	サプライチェーン全体での世界的な社会・環境課題の解決を目指すCSR調達が、企業価値の維持・向上に向けた実効的な取組みとなっている
製造	気候変動 (E1)	TCFDが求める水準の気候変動関連財務諸表が開示され、企業価値の維持・向上に向けた気候変動に対する実効的な取組みとなっている
物流	労働基準/安全衛生 (S1)	働き方改革（長時間労働の是正、非正規と正規社員の格差是正、労働力不足の是正など）の推進が企業のリスク低減やリターン拡大に繋がっている
販売	CSR/ESGマネジメント (ESG1)	CSR/ESGマネジメントが、企業価値向上を図るサプライチェーン全体を通じた取組みとして定着している

企業がESGリスクに対してどのような備えを行っているのか、結果として持続可能な発展が可能なのか、について対話



注目ポイントは、中長期的な企業価値向上に向けての悪影響の有無及び所在・リスクの停止・防止・軽減、結果の追跡、情報開示



結果として、環境デュー・ディリジェンスの要素全般がPDCAサイクルとして機能しているかを重視

## 建設会社A社

「調達基本方針」を策定するとともに、取引先に環境、社会、ガバナンス面の考慮を要請している。モニタリングは、一次取引先向けに会社状況のアンケートを行い、訪問ヒアリングする格好。主要取引先に対しては全件訪問を実施している点を確認。

## 食品B社

持続可能な調達をグループ共通テーマとして取組み強化中。カカオ・パーム油・紙に加え生乳及び水のCSR調達について、サプライチェーン全体での取組み状況を確認。パーム油と紙は3～4年後、カカオは6～7年後を目途に目標達成を目指す方針。

## タイヤC社

天然ゴムのサプライチェーンは、何階層もの小規模農家、中規模から大規模の農園、原料ディーラー、加工工場、ゴム製品製造業者で構成されており、一社のみでの対応に限界があることから、業界としての取組みを積極的に推進していく方針を確認。

## 商社D社

木材・パルプ及びパーム油については、2025年度までにトレーサビリティ100%の達成に概ね目途がついてきたが、一方で、繊維原料、水産物は、把握が困難なこともあり引き続き取組みを強化していく必要がある点を確認。

## 小売E社

RSPOやJaSPONの活動は、サプライチェーンが複雑であり、サプライチェーンを繋げることが重要なので意味がある。水産資源についてはMSC認証などが欧州の基準であり日本の漁業で扱う魚の種類とは異なる部分もある点を確認。

## 現状の印象

- ・ 環境DDについては、言葉自体も未だ浸透していないとの印象
- ・ 環境DDとしての認識は薄いですが、求められる対応はしっかり行っている企業も多いとの印象

## プロセス上の印象

- ・ 計画を立てて実行していく仕組み作りは得意との印象
- ・ 最終的な現場、特に海外の末端までの調査は苦手なのではないかとの印象

## 日本企業への期待

- ・ 国内企業同士での比較ではなく、グローバルでの比較を意識した対応を期待
- ・ コロナ禍でもリスクマネジメントについての気付きがあったが、更に積極的な頭の体操を期待

**ご清聴ありがとうございました**



©Asset Management One Co., Ltd.